

[歴史的・文化的発達研究]

かなり以前に執筆した下記の論文と、1つのコメントリ論文が現れた。

Kojima, H. (1998). The construction of childrearing theories in early modern to modern Japan. In M. C. D. P. Lyra & J. Valsiner (Eds.), *Construction of psychological processes in interpersonal communication (Child development within culturally structured environments, Vol. 4)* (pp. 13-34). Norwood, NJ: Ablex.

Kojima, H. (1998). Researcher's story told and participants' story still untold: Commentary on Günther. *Culture & Psychology*, 4, 75-80.

早稲田大学人間総合研究センター主催の公開シンポジウム「性とペアレンティング：母性と父性の比較」(オーガナイザー：根ヶ山光一教授)において、母性と父性の

変遷の発表をした(1998年10月31日)。その内容は早稲田大学の刊行物に現れる予定である。

[テキスト・番組等]

1998年度から全国放送されるようになった放送大学の専門科目(テレビ)、発達心理学(98)の主任講師を三宅和夫・北海道医療大学教授と担当した。その印刷教材として、小嶋秀夫・三宅和夫(編著) 発達心理学 放送大学教育振興会、1998を編集するとともに、以下の3つの章を執筆した。現在の発達心理学(pp. 9-19)、発達研究の歩み(pp. 20-35)、生涯発達の中での老年期(pp. 146-158)。また、4年を経て改訂された心理学史(98)の中で、前回と同じく1つの章を担当した。小嶋秀夫 発達心理学 大山 正・上村保子(編著)改訂心理学史(pp. 190-202)。放送大学教育振興会、1998。

(1998年11月5日)

## 研究経過報告(平成8年9月～平成10年8月)

田 畑 治

この報告は、2年に一回行うことにしているので今年が当たり年になる。

この一年半は、大きな全国学会(日本心理臨床学会第17回大会)を開催・運営する準備とも重なり、エネルギーをそちらにも充ててしまい、学術的研究や実践研究の活動は十分とはいえない状況であったことを、最初に記しておきたい。

### 1. カウンセリング過程と精神健康の研究

[著書・編著]

数年前に共同で行っていた臓器移植に関するコーディネーターの養成・教育訓練に関する厚生省科学研究の一貫として計画中であった関係書『コーディネーターのための臓器移植概説』(故・若杉長英(監修)白倉良太・高原史郎・芦刈淳郎(編)日本医学館、1997年)が、故若杉長英先生の一周年忌を記念して刊行された。昨年秋に“臓器移植法”が議員立法で成立してから早くも一年経った。臓器不良のために提供者を求めても、十分な数の臓器提供者に満たされず、海外にまで提供者を求めて出かけることが相変わらず続いている。本書は、この意味でもわが国におけるかかる方面への啓発になる教科書として、注目されていくであろう。筆者は、「対人関係の心

理学」(Pp. 46-47)を分担した。

クライアント中心療法。大塚義孝(編)『心理面接プラクティス』(至文堂、1998、Pp. 30-41.)

[論文]

青年期における孫・祖父母関係評価尺度の作成。(星野和実・佐藤朗子・坪井さとみ・橋本 剛・遠藤英俊と共同)。『心理学研究』、1996、Vol. 67 (No. 5)、Pp. 375-381.

成人と老親の関係と精神的健康に関する研究。平成6年度ジェロントロジー研究助成報告書(財・日本火災福祉財団)、1996、Pp. 156-165.

今、思春期のこころの健康はどうか(巻頭言)。『こころの健康』(愛知県精神保健福祉協会)第18号、1997.

援助する(to help)ということ(巻頭言)。『心理臨床一名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要』第13巻、Pp. 1-4、1998.

ある妻子殺人・死体遺棄被告人の臨床心理査定(鑑定)―その1. 目的・作業仮説・生活史。『心理臨床一名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要』第13巻、Pp. 5-14. 1998.

ある妻子殺人・死体遺棄被告人の臨床心理査定(鑑定)

—その2. 臨床心理検査・臨床心理学的考察. 『心理臨床—名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要』第13巻, Pp. 15-24, 1998.

[その他]

社会の変化と子どもの心の変化. 平成8年度名古屋大学東山地区公開講座. 『変貌する社会と人の心』, 1997年9月, Pp. 21-25.

カウンセリングのニーズの広がり. 『TASCマンスリー』(財)たばこ総合センター. 1997年3月, Pp. 4-8.

いじめ. 日本カウンセリング学会第30回大会・研修会・特別コース講師(立正大学), 1997年7月.

[学会発表]

心身の健康を害した息子を持つ初老の母親の心理面接過程. 日本心理臨床学会第16回大会発表論文集(東北大学教育学部), 1997, Pp. 262-263.

全国無作為抽出標本調査による低脂肪摂取と抑うつに関する研究. (坪井さとみ・下方浩史・安藤富士子との共同). 日本心理学会第61回大会発表論文集(関西学院大学), 1997, P. 900.

高齢者の喪失体験と悲哀の過程について—ある特別養護老人ホームにおける面接をもとにして. (吉田昌子との共同研究). 東海相談学会第30回大会発表(名古屋大学教育学部), 『東海相談学会会報』1998, 第30号, P. 10.

2. 心理臨床家の養成, 教育・訓練の問題

吉田統子さんのケースへのコメント. 『大阪大学人間科学部心理教育相談室紀要』, 1996, 第2号, Pp. 81-83.

3. 教育臨床, 教育的人間関係の問題

特集: 学校臨床と人間性をめぐって—学校臨床の立場

から. 『人間性心理学研究』, 第14巻(第2号), 1996, Pp. 205-212.

総合人間科の実践による学習動機づけの変化. (速水敏彦・吉田俊和との共同). 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学), 1996, Vol. 43, Pp. 23-35.

他傷傾向のある子との友だち関係を作るにはどうしたらよいのでしょうか? 『発達遅れと教育』(日本文化科学社)9月号, No.468, 1996.

養護教諭に求められるカウンセリングマインド. 『健康な子ども』(日本生活医学研究所), 5, No. 306, Pp. 2-3, 1998.

4. 書評

内山喜久雄編 1996 『臨床教育相談学』金子書房. 『児童心理』第51巻, 第7号, P. 142. 1997.

福島脩美 1997 『カウンセリング演習』金子書房. 『精神療法』, 第23巻, 第4号, (通巻101号), Pp. 96-97, 1997.

平山栄治 1998 エンカウンター・グループと個人の心理的成長過程. 風間書房, 『心理臨床学研究』, 第16巻, 第3号, Pp. 302-309, 1998.

最後に, 今年の9月18日(金)から21日(月)の4日間に渡って, 先に記した日本心理臨床学会第17回大会は, 熱田区の名古屋国際会議場を会場にして開催し, 学会参加者は予想を遥かに上回り, 4,000余名を数え盛況裡に終了し, 安堵をしている。会場は溢れんばかりの参加者を見た。ここで関係各位にも厚くお礼を申し述べる。

以上

(平成10年11月2日 記)

## 研究経過報告

速水敏彦

私がこの紙面で研究経過報告をした最も新しいものは42巻(1995年)であり, かなり長いこと報告を怠ったことになる。いや実は報告に足るような仕事ができなかったというのが真実かもしれない。

1. 動機づけ研究

かなり以前から単著で動機づけ研究をまとめたという気持ちを抱いていたが, 今春やっとそれが「自己形成

の心理—自律的動機づけ」(金子書房)というかたちで実現した。200ページにも満たない薄い本だが自分としてはかなり時間をかけ, これまでにはない動機づけの書物にしたつもりである。専門家の方々からはそれなりの評価をいただいたと考えているが, 多くの読者層として想定していた教師の方からはもう少しかみ砕いて書いてほしいという批判が多かった。この本の中核をなして